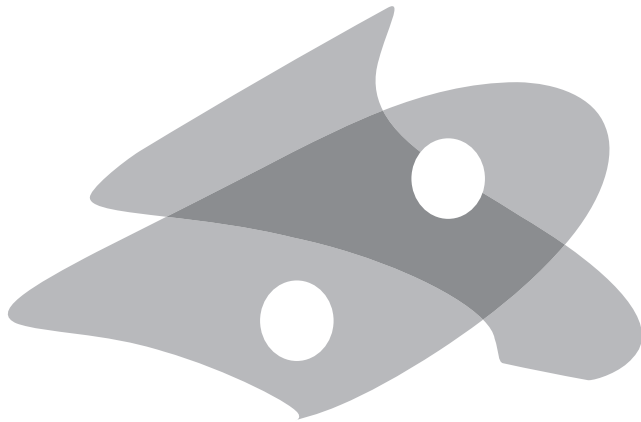


第 5 章

子育ての地域差

青柳 裕子



# 1. 日常生活のなかでの親子のコミュニケーション

首都圏では「子どもに一日のできごとを聞く」「子どもと『友だちや先生について』話をする」など、親子の会話が密な傾向がある。一方、「家族みんなで食事をする」「子どもと一緒に出かけると」など、親子が一緒に行動する場面は郡部、地方都市で多い。

日ごろの生活のなかでの子どもとの会話や行動、地域や学校とのかかわり、意識について、どのくらいの頻度かを、「よくある」から「ぜんぜんない」までの4段階評定でたずね、地域別に回答傾向をみた（全体的な傾向については、第2章p.38を参照）。図5-1は、各項目について、「よくある」と回答した母親の割合である。

## 親子のコミュニケーション

「子どもに一日のできごとを聞く」（首都圏55.5%、地方都市52.9%、郡部49.0%）、「子どもと『友だちや先生について』話をする」（首都圏55.3%、地方都市51.1%、郡部49.5%）、「子どもと『成績や勉強について』話をする」（首都圏41.1%、地方都市34.3%、郡部34.6%）、「子どもと『将来や進路について』話をする」（首都圏22.2%、地方都市16.6%、郡部16.1%）という親子の「会話」についての質問項目では、いずれも首都圏で「よくある」と回答した割合が高い。首都圏の母親ほど、親子の会話の機会が多いといえる。

## 親子が行動をともにすること

「家族みんなで食事をする」（首都圏68.9%、地方都市70.4%、郡部78.8%）、「子どもと一緒に出かける」（首都圏52.3%、地方都市61.5%、郡部68.3%）、「子どもと一緒に遊ぶ」（首都圏14.5%、地方都市17.7%、郡部17.3%）という行動面での親子のかかわりは、郡部で最も高く（「子どもと一緒に遊ぶ」は地方都市）、首都圏で最も低い。

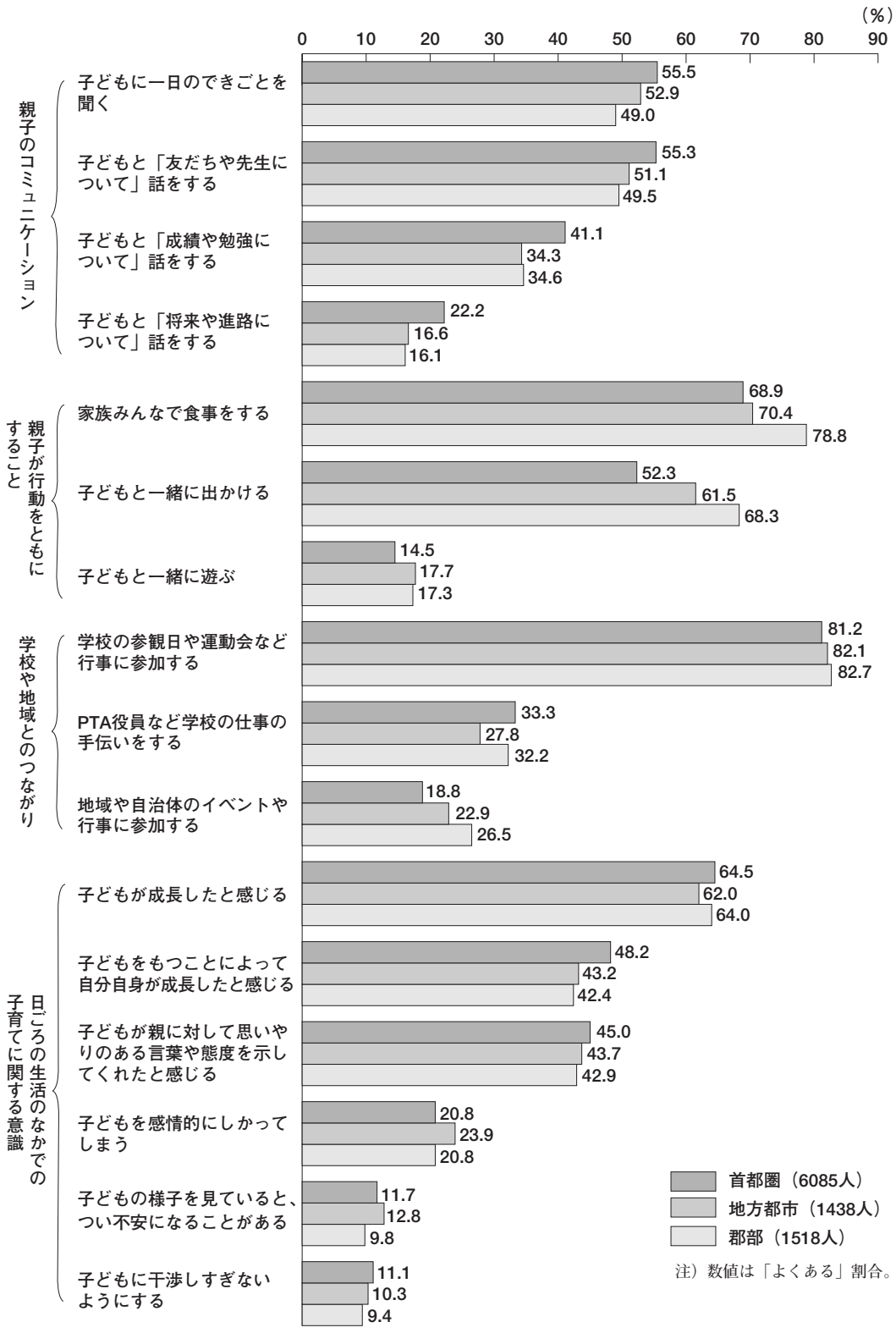
## 学校や地域とのつながり

学校や地域とのつながりについてたずねた「学校の参観日や運動会など行事に参加する」（首都圏81.2%、地方都市82.1%、郡部82.7%）、「PTA役員など学校の仕事の手伝いをする」（首都圏33.3%、地方都市27.8%、郡部32.2%）、「地域や自治体のイベントや行事に参加する」（首都圏18.8%、地方都市22.9%、郡部26.5%）の3項目では、いずれも郡部で高く、学校や自治体とのつながりが強いことが分かった。

## 日ごろの生活のなかでの子育てに関する意識

また、日ごろの生活のなかでの子育てに関する意識についてたずねた項目では、「子どもが成長したと感じる」（首都圏64.5%、地方都市62.0%、郡部64.0%）、「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」（首都圏48.2%、地方都市43.2%、郡部42.4%）といった成長感に関する項目で、首都圏がやや高い。首都圏の母親は、親子の成長を実感していることが分かる。また、「子どもを感情的にしかってしまう」（首都圏20.8%、地方都市23.9%、郡部20.8%）、「子どもの様子を見ていると、つい不安になることがある」（首都圏11.7%、地方都市12.8%、郡部9.8%）では地方都市でやや高い。このほか、「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」（首都圏45.0%、地方都市43.7%、郡部42.9%）、「子どもに干渉しすぎないようにする」（首都圏11.1%、地方都市10.3%、郡部9.4%）では、首都圏、地方都市、郡部の順で高い結果となった。

■図5-1 子育ての場面(地域別)



首都圏 (6085人)  
 地方都市 (1438人)  
 郡部 (1518人)

注) 数値は「よくある」割合。

## 2. 悩み・気がり

学習・進学に関する悩み・気がりは首都圏で高く、地方都市、郡部で低い。子どもとの接し方についての悩みは地方都市で高い。郡部では人間関係について悩みをもつ母親が多い。

現在の子どもの日常生活、成長発達・態度や性格、友だち関係、しつけ・教育や母親自身のことなど34項目から、母親の「子育ての悩みや気がり」を複数回答してもらい、地域別に回答傾向をみた（全体的な傾向については、第1章p.16を参照）。

### ● 学習・進学に関する悩み・気がり

学習・進学に関しては、総じて首都圏の母親で悩みや気がりをかかえる割合が高い結果となった（図5-2）。とりわけ、「子どもの進路」（首都圏27.3%、地方都市19.3%、郡部21.0%）、「受験準備」（首都圏19.1%、地方都市10.2%、郡部8.7%）では、地方都市、郡部と10ポイント近く差が開いており、受験や進学に関してさまざまな選択肢の開かれた首都圏の環境が大きく影響しているものと考えられる。「子どもの教育費」（首都圏20.9%、地方都市15.0%、郡部12.2%）についての悩み・気がりが首都圏で高いことも、受験や進学を取り巻く塾や習い事などがさかんな環境が影響しているといえよう。一方、郡部では「学校の宿題や予習・復習」を気がりとする母親が多く（首都圏28.2%、地方都市25.3%、郡部30.9%）、「子どもにあった習い事や塾、教材選び」は少ない（首都圏16.4%、地方都市19.3%、郡部13.6%）。塾や予備校と

いった校外学習の機会が少ない郡部の母親の、学校の勉強を中心にしっかり勉強してほしいという期待のあらわれともいえる。

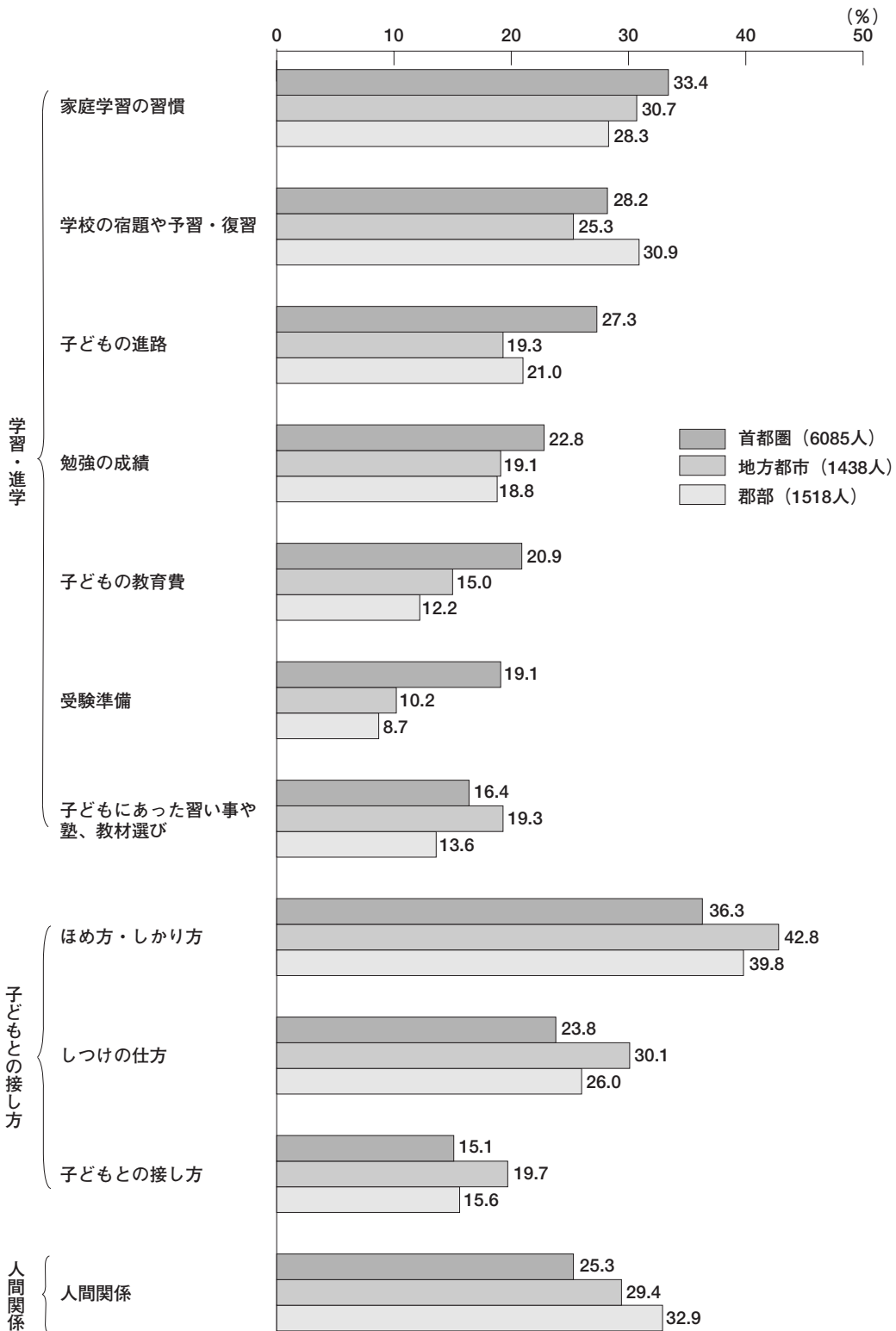
### ● 子どもとの接し方に関する悩み・気がり

子どもとの接し方に関する悩み3項目についても、図5-2に示した。「ほめ方・しかり方」（首都圏36.3%、地方都市42.8%、郡部39.8%）、「しつけの仕方」（首都圏23.8%、地方都市30.1%、郡部26.0%）、「子どもとの接し方」（首都圏15.1%、地方都市19.7%、郡部15.6%）のいずれにおいても、地方都市で高い結果となっている。地方都市の母親ほど、親子のかかわり方についての悩みをもっているようである。

### ● 人間関係に関する悩み・気がり

最後に、母親自身の「人間関係」についての悩みを同じ図に示した。郡部（32.9%）、地方都市（29.4%）、首都圏（25.3%）の順に「人間関係」の悩みをもつ割合が高くなっている。郡部や地方都市では地域や親族との関係が緊密な傾向がある。このことから、近所づきあいや家族関係などで人間関係の悩みをかかえる母親が多いと考えられる。

■図5-2 現在の子育ての気がかり(地域別)



注) 複数回答。34項目のうち地域差があった11項目を図示した。

### 3. 学力観・勉強観

郡部では学校生活の楽しさや資格取得を重視する傾向がみられる。首都圏では進学に対する意識が高く、また英語力への関心が高い。

母親の学力に対する考え方と勉強に対する考え方を複数回答の形式でたずね、地域間で結果を比較した（図5-3）。

#### ● 学力観

最初に、学力観をみると、「将来ふつうの生活に困らないくらいの学力があればいい」で、首都圏47.9%、地方都市56.6%、郡部63.4%と、結果に開きが出ている。また、「学校生活が楽しければ成績にはこだわらない」でも首都圏30.7%、地方都市32.5%、郡部36.9%と郡部で高い結果となった。郡部の母親は勉強はふつうの生活に困らない程度で、学校生活を楽しんでほしいと願う傾向がうかがえる。さらに、郡部の母親は「高学歴よりも資格を身につけるほうが将来役に立つ」とも考えている（首都圏43.1%、地方都市49.1%、郡部50.7%）ことが分かる。

#### ● 通塾・英語力

首都圏の母親が高かったのは、「いい学校に入れるには塾に通わせる必要がある」（首

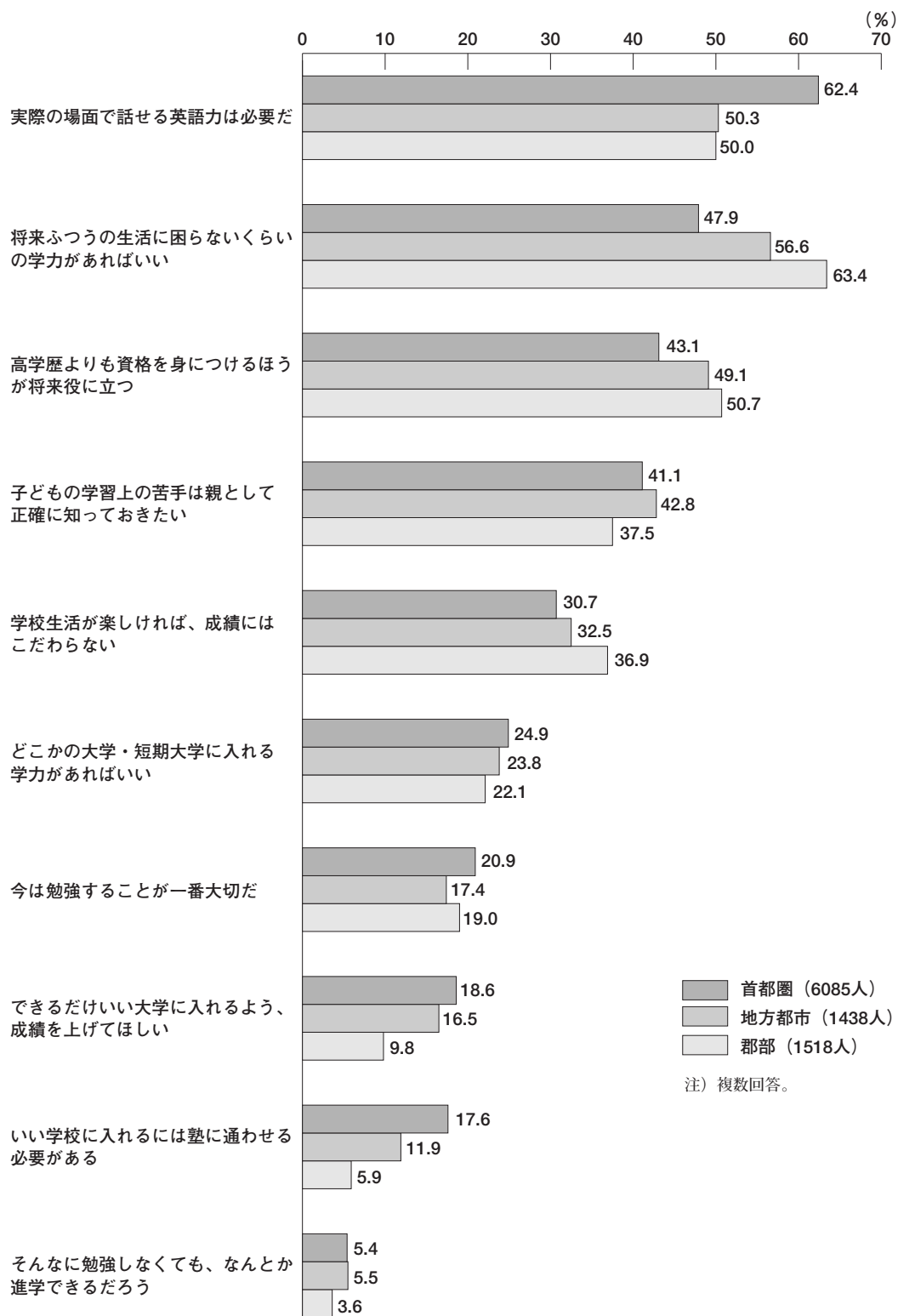
都圏17.6%、地方都市11.9%、郡部5.9%）という項目である。塾や予備校といった校外学習の機会が多い首都圏の母親は、校外学習に関心が高いといえる。また、英語力についての関心も同様で、「実際の場面で話せる英語力は必要だ」という項目では、首都圏62.4%、地方都市50.3%、郡部50.0%と10ポイント以上、ほかの地域よりも高い。

#### ● 進路・進学観

「今は勉強することが一番大切だ」（首都圏20.9%、地方都市17.4%、郡部19.0%）、「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げてほしい」（首都圏18.6%、地方都市16.5%、郡部9.8%）でも首都圏が地方都市、郡部と比較して若干高く、学力や学習に対する意識が高いといえる。

以上のような学力観・勉強観の違いが、第3章で指摘した希望する進学段階や通塾行動の地域差（p.64～71参照）を生んでいると考えられる。

■図5-3 学力観・勉強観(地域別)



## 4. 家庭環境

首都圏では子ども、保護者ともに、家庭におけるパソコンの利用率が高い。また、首都圏、地方都市では家に本がたくさんあり、知的環境に恵まれている。自分専用のテレビ、携帯電話やPHSを持つ子どもが多いのも首都圏の特徴である。

家庭でのパソコンの利用など、学習環境について複数回答でたずね、地域別に結果を比較した（図5-4）。

### 家庭でのパソコンの利用状況

まず、家庭でのパソコンの利用についてたずねた。「あなたの配偶者は家でパソコンを使うことがある」は首都圏63.2%、地方都市58.4%、郡部47.5%、「子どもが家でパソコンを使うことがある」は首都圏63.1%、地方都市56.3%、郡部42.2%、「あなたは家でパソコンを使うことがある」は首都圏50.9%、地方都市46.2%、郡部32.7%で、首都圏でいずれも高い結果となった。

### 家庭の学習環境

また、家庭の学習環境についてたずねた「子どもの勉強部屋がある」（首都圏76.8%、地方都市78.2%、郡部70.4%）、「家に本（マンガや雑誌以外）がたくさんある」（首都圏52.7%、地方都市51.8%、郡部45.2%）の2項目では、首都圏と地方都市で高い結果となった。

### 携帯電話・PHSの所持率

「子どもが携帯電話やPHSを持っている」では、首都圏で圧倒的に選択した割合が高く、地方都市と12.5ポイント、郡部と19.4ポイントの差がみられた。通塾や習い事など、学校のあと家庭外で行動する機会が多い、首都圏の子どもの特徴のあらわれといえよう。



■図5-4 家庭環境(地域別)

